

議事録兼報告書

会議等名称	平成28年度 伊那市子ども・子育て審議会 病児保育部会
日 時	平成28年9月1日（木） 午後6：00～6：40
場 所	市役所 302会議室
欠 席 者	宮下幸子委員
議 題	病児保育の市内実施について
議 事 内 容	
<p>1 開会</p> <p>2 部会長あいさつ</p> <p>3 報告事項</p> <p style="margin-left: 20px;">＜事務局＞ 前回の部会で当面の課題ということで出された「上伊那生協病院」「まえやま内科胃腸科クリニック」における市内児童の病児保育委託について、検討の上9月補正に計上した。9月議会議決後、関係市町村との委託契約等の事務手続きが整い次第実施していく予定。</p> <p style="margin-left: 20px;">質疑応答：なし</p> <p>4 協議事項</p> <p style="margin-left: 20px;">1) 市内での実施について</p> <p style="margin-left: 40px;">＜事務局＞ 資料に基づき業務内容及び施設構造についてたたき台（事務局案）を示す。</p> <p style="margin-left: 40px;">＜委員＞ 保育室各部屋に機能を持たせ室名を付けた方がわかりやすい。</p> <p style="margin-left: 80px;">「隔離室」感染力が強い子ども：空気換気を配慮（イメージ図での保育室1）</p> <p style="margin-left: 80px;">「観察室」安静の必要な子ども：事務室の近く（イメージ図での保育室3）</p> <p style="margin-left: 80px;">「保育室」比較的元気な子ども</p> <p style="margin-left: 40px;">＜委員＞ 対象は小学校3年生までがよいのか。一時期タミフル服用による錯乱状態で小学校高学年にも親がついて看ないとという話があった。そういうことになると3年生までで十分なのかと思う。危険性を考慮し6年生までついていた方がよければ対象年齢を上げた方がよいと思う。</p> <p style="margin-left: 40px;">＜事務局＞ 近隣での実施施設と違うと利用者が戸惑い混乱を招くということで統一した。</p> <p style="margin-left: 40px;">＜委員＞ 補助金の関係がどうなるか。</p> <p style="margin-left: 40px;">＜事務局＞ 必要であれば補助金がなくても対応が必要と考えるが、他の実施施設との混乱トラブル要因に成り得る。やるなら3施設が統一して直した方がよいと考える。</p> <p style="margin-left: 40px;">＜委員＞ 利用料金なんかもそうなると思う。</p> <p style="margin-left: 40px;">＜事務局＞ 前回会議でも広域的な運営が必要という意見をもらっているのので、いずれ実施していく中で必要と思われれば考えていく。</p> <p style="margin-left: 40px;">＜委員＞ 国の指針では小学校3年生まで。インフルエンザの異常行動についてはタミフルとは関係ない。飛び出し飛び降り等を10歳未満であれば抑制できるが、10歳以上は抑制できないのでタミフルは原則禁止となっている。今回予定施設は平屋建てなので飛び出ししないような整備が必要。</p>	

- <委員> 金曜日までというのはどうしてか。まえやま医院はやっているが。
- <事務局> 病児保育も保育の位置付けとして捉え、現在保育が月～金までなので同じ扱いでと考えている。
- <委員> まえやまは開業医、生協は土曜休み等営業の中での職員への負担軽減も必要では。
- <事務局> 公立は土曜日は例外的に受入しており、休日保育した場合は平日に休む振替というかたちになっているが、病児保育ではできない。申込がない日等含め毎日開けているのも管理上難しい。
- <委員> 土曜日であればだれかこうか面倒見る人がいる家庭が多いと思う。
- <委員> 保育士は、今回の広域委託や伊那市実施の場合は伊那市独自で手配するのか。今、保育士が絶対数足りないなかで可能なのか。
- <事務局> 事業実施者がそれぞれ手配している。
- <委員> 行政は支援はしてくれるが経営はそれぞれとなっており、経営状況によりフルやパートを確保して対応していると思う。
- <委員> 昼食を出す計画になっているが施設内に調理室がない。
- <事務局> 具体的にどこで実施するか計画はないが、中央病院を想定し病院の給食でと考えている。
- <委員> 費用はかかるが、給食について委託を受けている業者は多くある。また、学校給食などのように市の施設の中でやりくりの対応ができればそれも可能。
- <委員> 一番は安全面が大切。医師がどの程度関わっていくか。中央病院であれば小児科のバックアップがあればよいと思うし、医師会が協力することであれば、市の中心部にあれば可能かもしれない。
- <委員> 医師連絡票は中央病院のものが必要となるのか。
- <事務局> かかりつけの医師に書いてもらい実施施設へ持っていくことになる。
- <委員> まえやま医院は各医院に様式を配布してある。ネット取り寄せ可能となっている。
- <委員> 「医師が認める児童」とあるが、医師によって判断がまちまちになる。どこまでが該当になるという統一が必要ではないか。
- <委員> 難しいが、医師にもある程度の共通意識を持ってもらわないと思う。現実施設でも「これはだめ」等の基準は示している。
- <委員> 「預ける場合はこの医院に行っておいて書いてもらう」等、医院を指定するのはどうか。わかっている医院がよいのでは。
- <委員> 規制を引いて一定の医療機関に患者を誘導することは難しい。患者の奪い合いになる。外的な圧力で誘導するのは厳しい。
- <委員> 実施施設でというのは。
- <委員> 難しい。子ども患者がそこだけにどんどん集まるというのも問題。法律的に難しい部分もある。
- <委員> 何か病気が流行った場合は集中してしまう。
- <事務局> 生協病院でもインフルエンザの時期は集中し、お断りしている例もあるということも聞いている。
- <委員> 実施施設へ連絡票を持っていったらいっぱい断られたということか。
- <事務局> 事前の電話予約なので、通常その場所で断ることはない。
- <委員> 事前登録しカルテを作っておいて当日は連絡票を持っていく。多い場合は断わざるを得ない。
- <委員> 他2ヶ所は「当日受付」と書いてあるが。
- <事務局> 空いているかどうかわからないので、当日電話してよければかかりつけ医の連絡票を持っていくこともあると聞いている。

- <委員> 実際の利用数や断っている数は。
- <事務局> 断っている数はわからないが、資料を見ると定員一杯の日がある。
- <委員> 前日に連絡票を書いてもらったの当日受付もあると思う。
- <委員> 伊那市でやることになればかなりの利用があるのでは。箕輪町より少ない定員でよいのか疑問。
- <委員> 時期によっては相当お断りしなければと思う。定員を増やしても、利用のない日もあるので経営上のことを考えれば増やせばいいというばかりでもないのでもそも考えていかないと。そういうこともあり、それぞれの事情に応じて柔軟に対応できるように上伊那広域で話を進めてもらいたい。
- <事務局> 利用状況を見ながら、対応が必要であれば定員を増やせるような設備をとも考えている。

2) その他
なし。

5 その他

- <事務局> 今回の協議内容を基に市長報告案を作成し、次回部会において協議する。
- <委員> 中央病院へお願いしていくということであれば、現中病院長が小児科出身なので、話が元へ戻らないように任期中に話を進めた方がよい。

第3回部会開催日：10月27日（木） 午後6時30分 市役所304会議室